



夏休み子ども科学教室



夏休み期間中の火曜日に、環境について考えるきっかけ作りとして、「夏休み子ども科学教室」と「環境教室」を開催しました。毎週木曜日に行った「紙すき体験」と合わせて、その様子を紹介します！

バラのにおりと色を
体験しよう



東沢公園のバラの花を題材に、花のにおりを比べたり、ハンカチを染めたりしました。県内各地から参加してくれました。



サインペンの色を
分けてみよう

黒いサインペンのインクにいろんな色が含まれているのを知っていますか。水でにじませて、いろんな色を引き出していました。



台所の水の汚れを
調査しよう

米のとぎ汁やみそ汁、お酒のCODを調べました。こんなに違う結果が出るなんて、みんなびっくりしていました。



センター周辺の里山で昆虫や植物などの自然を観察しました。長～い昆虫網で虫を捕まえたり、クルミを割って食べたりしました。

牛乳パックで
紙すきをしよう

牛乳パックからパルプを取り出して、はがきをつくりました。花びらや色紙をはさんで、きれいなはがきをつくりました。何枚も作っていく人もいました。

里山の自然を
観察してみよう





こんな研究しています

* 酸性雨の生成に関する基礎研究 *

突然ですが、ここで
クイズ!



問題：下の写真に写っているのは何
でしょう？答えを選んでね。

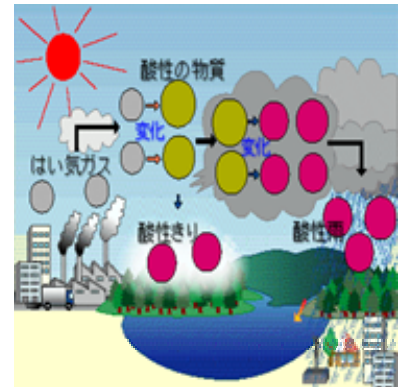


野球場のライト。
酸性雨を測定する機材。
風車。

大気汚染は、そのほとんどが石炭や石油などの化石燃料を燃やすことで起こります。工場、火力発電所、自動車などで化石燃料を燃やすと、エネルギーだけでなく、燃料に含まれる硫黄や空気中の窒素などから、硫黄酸化物や窒素酸化物の酸性ガス成分が発生します。

これらの酸性ガス成分は、雨や雪などに溶け込んだり、風に乗って遠くまで運ばれる間に硫酸や硝酸の粒となり酸性雨として降ってきたりします。

センターでは、北海道、東北地方及び新潟県の14の試験研究機関と共同で、酸性雨の生成原因と考えられる酸性ガス(SO₂、NO_x、O₃等)成分の濃度を、写真のようなパッシブサンプラーと呼ばれる機材で測定し、酸性雨の仕組みを解明するための基礎的調査を行っています。



答えは **パッシブサンプラー** という酸性ガス成分の濃度を調べる機材です。

第3回生態学講座

8月28日(日)開催
会場：県立自然博物館(西川町志津)

第3回講座では森林を対象に、午前中は森林保全活動の実践家を招きその活動報告を聞きました。参加者からは「大変ためになった。今後の活動の参考にしたい。」などの声が聞かれました。

午後からは実際に森林に入り、当センター研究員が森林の調査方法について解説しました。(写真はブナのトラップ調査について解説)



『地球のいまを知ろう! 環境学習体験バスツアー』に参加した子どもたちが8月3日(水)と17日(水)に当センターを訪れました。

このバスツアーは、地球温暖化の防止や、美しい山形の自然を守るため、自分たちにできることから行動すると宣言をする「エコファミリー」のリーダーを育成することを目的に、NPO法人の環境ネットやまがたが主催したものです。



短い時間でしたが、子どもたちは本を読んだり、リサイクルおもちゃで遊んだり、楽しく過ごせたようです。

山形県環境科学研究センター 村山市榎岡笛田三丁目2-1 : 0237-52-3124
e-mail: kankyose@pref.yamagata.jp 編集：環境企画部 平成17年8月31日発行